

# 奏



# SOUL

Vol.50 Fall 2018

インタビュー:

宮川彬良  
作曲家

音楽の学び舎:東京藝術大学  
松原勝也

二つの英国流コンクール  
~ロンドンとメルボルン~  
渡辺和

サクソフォン四重奏の魅力  
本堂誠

音楽文化の源:三重県文化会館

インタビュー  
×  
コンサートレポート  
宮川 彬良



リハーサル中の宮川彬良さん

芸術と芸能の両方の現場を見てきたことで、  
様々な見方ができるのは強みだと思おう。

まだ残暑厳しい八月二十六日、秋風を運ぶような爽やかで楽しいコンサート「アキラさんの室内楽でございませう」が、福島県の「いわき芸術文化交流館 アリオス」で開催されました。そのコンサートのリハーサルを訪ね、コンサートについてのお話や宮川彬良さんの音楽に対する思い、また、今後の展望などについてお話を伺いましたので、紹介しましょう。



「アキラさんの室内楽でございませう」 いわき芸術文化交流館 アリオス大ホール



クの名曲からテレビ番組のテーマ曲、歌とダンスの宮川ファミリーのコーナーまで、様々な要素があって、非常に楽しくユニークですね。

**宮川** ありがとうございます。牧野 このコンサートをされるようになったきっかけは？

**宮川** 福島県で子供のための復興支援コンサートをしませんかと声をかけていただいたんですよ。

**牧野** 今回もそうですが、一九九八年に阪神・淡路大震災からの心の復興を願って生まれた宝塚のアンサンブル・ペガもずっと活動されておられますよね。そうした被災地への復興支援という思いは強いのでしょうか。

**宮川** どちらかというと復興支援に対しては、あまり能動的ではないと思います。もちろん、誘われたら参画すること

復興支援と大仰に考えず、まず自分ができるところからしたいと考えています。——宮川

**牧野** 今、「アキラさんの室内楽でございませう」というコンサートのリハーサルを拝聴させていただきましたのですが、クラシッ

ているのですか？

**宮川** そうですね、基本的にコンサートは舞台公演だと思っ

**牧野** というところ？

**宮川** 当時、現代音楽を聞きながら「この曲、いつたいいつ終わるのだろう」と、苦い思いを何度もしたんです(笑)。そういう経験があったからこそ、「自分はみんなが楽しめるようなエンターテイメントを目指そう！」と自覚したのだと思います。つまり、人が楽しんでいない状況は、自分も楽しくない。どんなに自分の思いが達成できたとしても、人を楽しませられないのなら、それは良いものではない。ええ、いいのではないかと、思い始めたんです。

**牧野** なるほど。

**宮川** まず、目の前にいる人たちを楽しませたい。人の時

間を約二時間いただいた上に、お金までいただくわけですからね。そうしたことをあまり

**牧野** そうですね。

**宮川** うちの家系は、芸術一家というよりは、芸能一家に近いので、まず人を楽しませたいという思いが強く、家族全員、日々、いろいろな苦心してアイデアを考えていましたからね。ま、芸術と芸能の両方の現場を見てきたことで、様々な見方ができるといえるのは強みではあるかもしれない。ただ、常に「これで良いのだろうか」という思いがありますし、反省したり、考えたり、工夫したりを繰り返します。脚本も自分で書いて司会も担当するだけに、自問自答の日々ですね。

**牧野** 演奏を拝聴していると、非常に楽しくテンポの良い演出をされていますが、そこには「お客様を楽しませたい」という強い思いがあるということですね。

**宮川** そうですね。お客様に見ていただく限りは、なぜこの

も多いですが、復興をなんとかしたいというよりも困っている

人を助けたいという思いの方が強いですね。

**牧野** なるほど。

**宮川** それに、災害って明日は我が身という意識があるんです。今年だけでも関西で地震があつて、岡山・広島などで大雨の被害があつて、今もダブル台風が近づいている(八月二十三日現在)。様々なところでいつ何が起るかわからない状況です。だから、本当に明日は我が身だからこそ、復興支援と大仰に考えず、まず自分ができるところからしたいと考えています。

**牧野** とはいっても、コンサートをはじめ音楽というのは、被災者にとって大きな支援になりますよね。

**宮川** そうですね。ただ、チャリティや支援だから特別ということはありません。毎回、全部特別です。妙な言い方になります。僕がいつもどんなコンサートを目標しているか…、今まで僕が一番感動した音楽会は「音楽葬」でした。未だにそれ以上に感動したものはな

いです。

**牧野** 音楽葬ですか。

**宮川** 音楽葬というのは、その場にいる全員の思いが一つというか、思いを向ける角度が一緒だから素晴らしい。できたら、いつでもそんな風にならなければと思っています。また、愉快な音楽をやるときも、それはもしかしたら最後の一回かもしれない。そんなつもりで必死に上演したいのです。感動の価値を下げたくない。それは支援であつてもなくても同じことでしょうか？むしろ平時であるからこそ問われることかも知れません。



宮川さん

「お客様を楽しませたい」という強い思いがあるのですね。

——牧野

**牧野** 宮川さんのコンサートでは、いつもお客様と一体化できるような仕組みを考えられ

聞き手・コンサートレポート  
【牧野 立太】 日本室内楽振興財団 常務理事

PROFILE

敬称略

【宮川 彬良】(作曲家)

1961年東京都出身。劇団四季、東京ディズニーランドなどのショーの音楽で作曲家デビュー。その後、数多くのミュージカルなどを手掛け、自らを舞台音楽家と称する。代表作に「ONE MAN'S DREAM」「身毒丸」「マツケンサンバII」など。また、「コンサートはショーである」を信条に日本各地で演奏活動を行っており、幅広い層に親しまれている。NHK Eテレ「クインテット」NHK BS2「どれみふぁわんダーランド」NHK BSプレミアム「宮川彬良のショータイム」で音楽担当、ならびに出演。歌劇「ブラックジャック」、アニメ映画「宇宙戦艦ヤマト2199/2202」、ミュージカル「ナイン・テイルズ」、NHK木曜時代劇「ちかえもん」、NHK連続テレビ小説「ひよっこ」の音楽など、多岐にわたって活躍している。  
http://akira-miyagawa.com/

曲を演奏したいのか、この曲は  
どういう意識で演奏するの  
かという部分に、筋を通さなく  
ちやいけなと思うんですね。  
でないと「この人は何も考えて  
いないな」と、すぐに観客にバ  
ンしてしまいますからね。だから  
こそ、そこは手が抜けないとい  
うか、十分納得できるまで考  
えなくてはいけないと思ってい  
ます。

**牧野** 聴く方の立場からも、  
物事を考えられるんですね。

**宮川** そうです。また司会と  
いう意味では、澁みなく回路  
をつなげていくという感覚も  
大切です。あれこれ迷ってわか  
らなくならないよう、反射的  
に展開できるように何度も何  
度も反芻してみたり、即興的  
に面白い物の見方をするな  
ど、そうした感覚を鍛えてい  
ます。

**牧野** クラシックの演奏会は、  
楽曲だけを提示する場合に  
多いですね。

**宮川** そうですよ。僕がコ  
ンサートを始めたのは三十五  
歳くらいで、それ以前はミュー  
ジカルなどのショービジネスの

現場で育ちました。こういう  
ことをいうと非常に生意気で  
すが、その当時、コンサートを  
淡々と開催するのは、非常にラ  
クだと感じたんです。

**牧野** というところ？

**宮川** コンサートは、照明の  
キユーを待たなくていいし、着  
替えることもない。音響マイク  
も使わないし、演奏家は全員



上手じゃないですか(笑)。シン  
ブルな上に指揮者が全部司っ  
て責任が取れるというか、リー  
ダーシップが取れる。ま、そう  
いう面で指揮者の責任は重い

「ショパンを聴きましょう」と  
いった思いでしているのではない  
んです。

**牧野** クラシックの先生とい  
うのではなく、幅広く音楽の先  
生というわけですね。

**宮川** そうですね。もう少し  
大きな括りの中で音楽を語り  
たいと思っています。

**牧野** その大きな括りの中の  
一部がクラシックだと…。

**宮川** そう、自然か不自然か  
ということは、すべての音楽で  
共通することですよ。僕は  
幸運にもいろんな音楽が流れ  
る環境で育ったので、それぞれ  
の音楽を比べやすい立場なの  
かもしれない。いうなれば、銭  
湯の番台のようなところにい  
たのでね。

**牧野** それは宮川さん独自の  
立ち位置ですよ。

**宮川** コンクールも受けずに  
草の根のようにやってきたし、  
元々はロック少年だった。でも、  
様々なものを見てきたことに  
よって、多様な経験ができた。  
それはトクな部分だと思っ  
て、いろいろ経験してきたか  
ら、新しい取り組みにも挑戦

ですが、音響と照明とセットか  
ら解放されるだけでもラクだ  
と感じましたね。自分のキユー  
で始めていい。という(笑)。ま  
た、オーケストラの練習は三日  
間程度が多い。合理的という  
か、それでできるのが素晴らしい  
ですよ。僕の場合、オーケ  
ストラの練習なら二日で終わる  
場合もある(笑)。本番に向け  
ギョツと集中する方法には最  
近やつと慣れました。これが、  
ミュージカルの場合だと、上演  
も一カ月に渡りますし、芝居の  
稽古となると最低一カ月はかか  
りますからね。

**牧野** そう比べると、確かに  
そうかもしれませんね(笑)。

**もう少し大きな括りの中で音  
楽を語りたい。**——宮川

**牧野** 宮川さんはオーケスト  
ラの指揮もされますし、アンサ  
ンブルもされる。そして、音楽  
はクラシックからポップス、ジャ  
ズと様々なジャンルを手掛けて  
おられますよね。すべての垣根  
を取り払った「宮川ワールド」  
という独自のものを築かれて

できるのではないかと。例え  
ば、ベートーヴェンが貴族たち  
のための音楽に嫌気がさして、  
一般のためにアカデミーを創っ  
て門戸を広げた。あのような  
事にはとても共感します。

**牧野** 貴族のためだった音楽  
の楽しみを、一般にも広めた  
という「改革」ですね。

**宮川** そうですね。心意気の  
部分においては、そうしたベー  
トーヴェンや皮肉屋のサン＝  
サーンス、何を考えているのか  
わからない、何者か掴みど  
ころのないマーラーなどに、共感で  
きる部分が多々あるんですよ。



**牧野** だから宮川さんの音楽  
は、クラシックをあまり聴いた  
ことがない人にとつても、わか  
りやすく魅力的に思えるのか  
もしれませんね。

**宮川** それはあるかもしれま  
せん。テレビで話すと、よくわ  
かりやすいと言っていただけ

いるように感じますが…。

**宮川** 結果、そうやってきたの  
かもしれない。それを目指  
してきたのではなく、自然とそ  
うなったという感じですね。

**牧野** そんな宮川ワールドの  
原点は何なのでしょう？

**宮川** ビートルズなどのポップ  
スかな。若い頃はロック少年だっ  
たし、クラシックは苦手でした  
からね(笑)。

**牧野** そうなんですか。

**宮川** ピアノの練習も嫌いで  
ね。ただ、先生のいう通りにす  
ると指が動くから、話は聞く  
ようにして(笑)。基礎の「ハ  
ノン」は好きでしたが、未だに  
クラシックには目覚めていない  
ように思います。とはいっても、  
和声学や対位法は丁寧に勉強  
しましたよ。でないと芸大には  
入学できないですからね  
(笑)。勉強を始めたのが遅かつ  
たから、自分なりの努力はし  
ました。そうした基本の大切  
さを実感したからこそ、それ  
を子ども達に伝えていついて  
いる部分はあると思います。決  
してクラシック普及のために活動  
しているのではなくね。

す。でも、こうすればわかりや  
すいだろうと考えて話すこと  
はなくて、常に心からそう思  
うから話すというスタンスで  
す。根底に、シューベルトが好き  
とかモーツァルトが好きとい  
うのがないということも影響し  
ているのかもしれない。そうい  
うことがないから、クラシック  
好きのためだけの言葉遣いに  
なっていない、それが他の人  
にとつては、わかりやすいのか  
もしれないですね。

**牧野** だから、子供達にもわ  
かりやすいと…。

**宮川** でしょうかね。

**牧野** 宮川さんは、クイーンテッ  
トもそうですし、教育番組な  
ど、あらゆるシーンで子供達と  
一緒にいることが多いですよ。

**宮川** 確かにそうですね。

**牧野** でも、お話を伺っている  
と、特に子供、大人と意識する  
ことなく、同じように考えてお  
られるように思うのですが…。

**宮川** そう、基本的には同じ  
です。ただ、子供は弱い立場だ  
から、放っておけない。例えば、  
コンサートで退屈している子供  
がいたら救済したい(笑)。子

供というより、その場の弱者に  
対してなんとかしたいという  
思いはありますね。

僕にとってアンサンブルは音  
楽学校だと思っています。

宮川

宮川 最近気になつてい  
るは、子供だけに限らず、多くの  
人が「気配」というものを感じ  
ないようになってきているので  
はないかということ。例えば、  
目の前にお年寄りが立っていて  
も気づかずに席を譲らない。無  
神経というより、気配を察す  
る能力が落ちてきているように感  
じます。スマホがあると目の前



うわけですね。

宮川 そうですね。中でもア  
ンサンブルは、合奏の基本、僕に  
とっては音楽学校だと思ってい  
ます。

牧野 最後に、これからの展  
望をお聞かせ願えますか。

宮川 それぞれの分野におい  
て、自分なりの決定打を築いて  
いきたいと考えています。子供  
のためのコンサートならコレ、日  
本語のオペラならコレ、オーケ  
ストラコンサートならコレと、  
そういえるような、それぞれの  
決定打を創っていきたい。いま  
までやってきたことを研ぎ澄ま  
せながら、さらに充実させたい  
ですね。



牧野 これからも宮川さん  
のご活躍に期待しております。  
本日はリハーサル終了後のお  
疲れの中、お時間を頂戴いた  
しまして、誠にありがとうございました。

のことを無視して、違う世界に  
入り込めるじゃないですか。

牧野 そうですね。どこにいて  
も自分だけの世界に入つてし  
まう…。

宮川 鈍感になるというだけ  
でなく、とても大切な感覚を  
失いつつあるように思います。  
気配というのは、音から感じる  
と思つているんですね。指揮も  
手の動きだけでなく、空気を  
切る気配があると思うし、演  
奏者同士もその場の気配を感  
じて合わせているような感覚  
もあると思うし、それが大切  
なんだと思います。室内楽だつ  
てそうでしょう。お互いの気配を  
察することが非常に重要では  
ないですか。だから、そうした  
ことも伝えていければ良いな  
と思いますね。

牧野 そういうことを、より  
楽しく伝えていきたいという  
ことですか。

宮川 そうですね。  
牧野 宮川さんがいろいろな  
ジャンルに取り組まれるようにな  
った経緯というのは？

宮川 中学生の頃からバンド  
活動を始め、自分で作った曲を

演奏したりしていました。その  
後、様々なことをしましたが、  
楽器はピアノ以外しなかった。

その後、ミュージカルのオーケス  
トラピットの現場で様々なこと  
を学んで、三十三歳の時、大阪  
フィルで初めての指揮台に。  
オーケストラピットで指揮はし  
ていましたが、本格的な指揮  
はそこがスタートですね。

牧野 現場を通して学んでこ  
られたんですね。

宮川 そうですね。その後、大  
阪フィルにいたメンバーから室  
内楽に誘われて、アレンジとピ  
アノを担当することに。非常に  
上手な方たちばかりで、もの  
すごく緊張して不安もいっぱい  
だったのですが、こんなことは一  
回限りだろうし、良い経験に  
なると思つてお受けしたんで  
す。それが現在まで続いていて  
二十年以上にもなる「アンサン  
ブルベガ」なんです。なのでアン  
サンブルベガは、僕に室内楽を  
教えてくれた学校のような存  
在です。本来なら学校で受け  
るような授業を、全部そこで  
受けたという感じですね。九  
人編成で、最初は年に二回だつ

### 「コンサートレポート」「アキラさんの室内楽でございませう」八月二十六(日)

## 福島の子供たちに、音楽と楽器の楽しさを！

会場の「いわき芸術文化交流館ア  
リオス」は、福島県を代表する文  
化施設のひとつ。その大ホールで開  
催されたコンサートは、東北大震  
災で被災した子供たちに楽器を  
届ける活動を行う「こども楽器プ  
ロジェクト」と会場のいわきアリオ  
スが第一回ことのためのコンサ  
ートとして開催したもので、当日は  
子供達を中心に若男女大勢の  
観客が来場しました。コンサートの  
前後には、子供達が実際に楽器に  
触れられるイベントをロビーで開  
催。みんな目をキラキラさせなが  
ら初めて触れるヴァイオリンやチェ  
ロを楽しく弾いていました。

割れんばかりの歓声と共に始ま  
ったコンサートは、「トルコ行進曲」や  
「くるみ割り人形」など子供たち  
にもなじみのクラシックの名曲や、  
宮川さんが作曲・出演したNHK  
教育テレビ「クインテット」の曲、宮  
川さんファミリーでの演奏など、全  
十六曲。二〜四分程度の曲ばかりで、  
子供を飽きさせない上、宮川さん  
の楽しくわかりやすい話で、クラ

たのが、今では十回から十五回  
程度集まっています。



宮川彬良&アンサンブルベガ ©T. tairadate

牧野 日本では、アンサンブル、  
室内楽の教育はあまりさかん  
ではないようですね。

宮川 かもしれませぬ。指  
揮法の本質を見たのもアンサ  
ンブルベガで、そこでたくさん  
経験を積んだおかげで、オー  
ケストラで堂々と登壇できる  
ようになったのだと思います。  
逆に、オーケストラで積んだ経  
験や学んだことを、アンサンブ  
ルでの演奏やアレンジに生かす  
というように、良い循環が出来  
ているように感じています。

牧野 いろいろなやつてきたこと  
が様々なことにつながったとい



楽器と触れるコーナー(ロビー)



公演の趣旨を紹介する宮川さん



地元の小学生のコーラスも参加

### こども楽器プロジェクト

ドイツの音楽家らの呼びかけで、東日本大震災によって楽器を失った子どもたちに「音楽支援」と始まった活動。被災地の学校などに楽器を届ける活動や訪問コンサートを行う一方、いわき芸術文化交流館アリオスの協力で「楽器図書館」を設立。ドイツや日本国内から寄贈された楽器を会館で保管し、子どもたちへの貸し出しなど楽器と触れ合う機会をつくることにより、音楽を通して未来に向けて豊かな心を育ててもらうことを目指している。

### 宮川彬良&アンサンブルベガ

1997年、阪神・淡路大震災を機に宝塚ベガホールで誕生。  
2003-10年、宮川彬良が音楽を担当・出演したEテレ「クインテット」では人形たちの演奏を担当した。「アキラさん」のユーモアあふれるトークと、ジャンルを越え室内楽のだいたいご味を追求するステージはピギナーから熱烈なリピーターまで幅広い層から支持を集め、公演回数は200回を越える。  
これまでに3枚のアルバムを発表。http://office-vega.net



東京藝術大学教授 音楽学部器楽科  
松原 勝也

「松原勝也(まつばらかつや)プロフィール」  
東京藝術大学在学中に安宅賞受賞、新日本フィルコンサートマスターを歴任。無伴奏シリーズ、ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏や、自らの編曲によるJ.S.バッハ「ゴルトベルク変奏曲」フレイトとラウ「カ」の弦楽五重奏版が注目される。静岡AOIレジデンス・クラリネット、カルテット「ターニメン」ハル、長崎O.M.U.R.A室内合奏団アーチスト、クラリネットアドバイザー、東京藝術大学教授。

### 室内楽は他者と何を共有するかを捉える根本です。



東京藝術大学外観

東京芸術大学での室内楽教育の始まりについて、正確なことは知らないのですが、僕が芸大に入学した頃には既に選択科目として室内楽のレッスンを受けることができました。大学院の室内楽研究科はまだなかったのではないかと思います。ピアノの田村宏先生が中心になつて室

内楽教育を始めたという話は聞いていますね。また、ピアノとソルフェージュを教えていたアンリエット・ピュイグロジェ先生が室内楽教育に非常に熱心で、彼女も芸大における室内楽教育の黎明期を支えた二人ではないかと思っています。ピュイグロジェ先生は僕が芸大に入ってから九八年入学ほどなく退任されましたが、何度かレッスンを聴いたことはあります。

内楽教育を始められたという話は聞いていますね。また、ピアノとソルフェージュを教えていたアンリエット・ピュイグロジェ先生が室内楽教育に非常に熱心で、彼女も芸大における室内楽教育の黎明期を支えた二人ではないかと思っています。ピュイグロジェ先生は僕が芸大に入ってから九八年入学ほどなく退任されましたが、何度かレッスンを聴いたことはあります。



のレッスンを受けることができず。一緒に組んだ先生が必ず最後まで面倒をみるということ、修士演奏会やその間にある研究発表会なども、全てその方と一緒に出演します。やはり、同じパートナーと時間をかけて作っていくということは、室内楽

において大切です。共演する先生は現役のプロフシヨナルなプレイヤーであり、指導という立場だけでなく、一緒に演奏することとさまざまな音楽経験を自然と得ることができるので、とても優れたシステムだと思います。修了して卒業した学生もみんな戻ってきたと言ってくらい雰囲気も良いんですよ。曲目に關しても、二人でじっくりどのようなものに取り組みたいのか考えてもらって、自発性を大切にしながら上でわれわれも相談に乗っています。修士の二年というのは短いので系統立てて学べるようにアドバイスしていますね。

もりは全くなくて、個々のアンサンブルで何だろうってことを、曲を通して、音楽を通して深掘りしていこうということ、心がけていますね。というか、全部室内楽じゃないですか。室内楽っていうのは他者と何か共有するっていう根本をどう捉えるかということだと思えます。それはもしかしたら音楽に限らないかも知れないし。普通アンサンブルと言うと、まずはとりあえず合わせ、みたいなことになりがちですが、僕はむしろ、他者と自分の違いや作品における役割の違いなど、違いを認識するところから始めたいなと思っています。違うものが合わさった時に、一種のケミストリーというか、あるいは音楽的なアウフヘーベンというか、全く違うもの、新しいものがそこから生まれる、個人的にはそこにすごく面白さを感じているので、学生にも、自由に感性を働かせて、楽器や楽譜の記号の即物的な解釈などに囚われず、いつも創造するということを言っています。創造の瞬間に立ち会うこと、それをメンバーと共有することの素晴らしさと言えま

す。僕が信じているのは、そういう考え方は、おそらく社会に出た時に非常に役に立つものだと思います。つまり、コミュニケーションは見えるものを取りあえず格好つけて、例えば縦の線が合っている、音程が合っていると、それから取り決めや約束事をたくさん作ってその通りになぞっていくような、そういうことに陥りがちなんですけれど、僕のレッスンでは、そういうもの一切を切りセツトして、真っ平らにして、そこから新しくつくる。そして、それはいつも変わっていく。普通ではなく、変容していく音楽っていうことを僕はいつも言っています。変わらないものはない、っていうことですね。

のほうで簡単だから。取り決めてその通りにやればいいわけだから。そして、決めた通りにいかなかったら相手を責めてしまふ。それってちっともクリエイティブじゃないし、そんなことのために音楽をやっているわけじゃないですよ。それは言っていないと忘れちゃうんですよ。だから言い続けています。

ね。でも、それはある種の洗脳だし、むしろものすごく様々な捉え方のできる演奏っていうのが、本当にあるべき姿だと思えます。僕らは、本当は、色々な価値基準の中で生きていくわけだから。上手な人たちの世界っていうのが、世の中ではあたたかも音楽の真髓みたいな言われるけど、全然そうじゃなくて、真髓はすぐ目の前にもある。みんな、弾けないからそれができない、って思い込んでいる節がある。でも、本当はそうじゃないんじゃないかな。それは、単に音程が悪いとか、音の間違えたとか、そういうことがまるで罪のように扱われているという状態から自由になれば、本当に楽しい時間になるのに、早いところそれをやめた方がいいと思うんですよ。大学にいなながらこんなことを言うものなんだけれど、大学に染まらないように、「音楽人」として、どう自由であるべきか、ということも言っていますね。



# ふたつの英国流コンクール 〜ロンドンとメルボルン〜

音楽ジャーナリスト  
渡辺 和

二〇一八年、世界最高レベルの弦楽四重奏コンクールに挑戦する俊英達を待つ戦いの場はロンドンとメルボルンとなった。三万六千キロ以上の距離があるものの、共にクラシック音楽が娯楽として深く根付き、アマチュア奏者や室内楽愛好家の絶対数も多い旧大英帝国文化圏の大会。「見似たもの同士ながら、その結果は対照的な大会となった。」

## ◆ロンドン

―情報発信中心は独自の評価に挑み続ける

四月十日から十五日、ロンドンで「二〇一八ウイグモアホール国際弦楽四重奏コンクール」が開催された。通称「ロンドン大会」。一九七九年に軍港町ポーツマスで始まったこの三年毎の大会、有意義な国際イベントを考える市長から相談を受けたメニューイン卿が、まだ世界に殆どなかった弦楽四重奏に特化したコンクールを薦めたのがきっかけと伝えられる。つまり、大阪国際室内楽コンクール&フェスタと同じ父親を持つ兄弟大会だ。

室内楽大会としては異例な



ロンドン大会予選(英国ロイヤル音楽院講堂)

三十近い団体が一次予選に参加。上海Qを筆頭に、世界の若者を弦楽四重奏に導くことになる。ロンドンのシテイに移った

した大会である。メニューイン卿没後、音楽学校やBBCが主催する試行錯誤を経て、前回からウイグモ

後も、卿存命中の二十世紀中は同じ傾向が維持される。九〇年代半ば

までは、参加団体は会場近くの大学寮に最終日まで残り、参加者全員による弦楽合奏をメニューイン卿が指揮し大会を締め括った。国境や文化を越え音楽の普遍性を信じる卿の理想ばかりか、昨今盛んに論じられる「フェスティバルとしてのコンクール」のコンセプトを時代に先駆け実現

アホールが主催となる。同ホールの歌曲コンクールと並び、「歌曲と室内楽」という老舗ホールのアイデンティティを示す二本柱のひとつに据えられた。今

回からは公式名称にポーツマスからの通し番号も「ロンドン」という地名もない。この大会の特徴のひとつは、評価の独自性にある。誤解を怖れず言えば、関係者の思惑を覆す大会なのだ。初期こそタカーチュEQやハーゲンQなど中欧の俊英を優勝させたが、以降の優勝入賞団体リストは国際大会の名に恥じない。音楽的に両極にあるアマデウスQ、ブレイニンとラサルQ、レヴィンが審査員に座り、審査が困難を極めたメニューイン卿逝去後の二〇〇〇年大会以降、卿が信じた音楽的価値の多様な選択を続けている。ウイグモアホール・ブランド

を前面に出した実質十四回目の今回も、そんな傾向は変わらなかった。今やメニューイン大会の主流となった「招聘団体を絞り多く弾かせる」審査の結果、準決勝六団体から決勝三団体、最終結果発表と、ギャラリーを響めかす名前が並び。昨今の国際大会でファイナリスト常連だったゴールドムントQが二位に止まり、昨年後半



室内楽の聖地ウイグモアホールの舞台上で優勝を喜ぶエスメQ

以降から小規模大会に顔をみせ始めたばかりの新鋭エスメQが優勝を攫った。ザルツブルク・モーツアルテウム大会のノブスQ優勝を除けば、メニューイン大会での韓国勢優勝は初。台湾のフォルモサQ、デンマークのダーニッシュQ、ルーミアのアルカディアQらに、本命視された団体を押しつけ栄冠を与え続けたロンドンらしいと言えよう。

◆メルボルン  
―大会主催者の変更  
ロンドン大会から二ヶ月半後の七月一日から八日は、真冬の南半球で「メルボルン国際室内楽コンクール二〇一八」である。一



メルボルン大会の弦楽四重奏部門表彰式(中央優勝ゴールドムントQ)

アノ三重奏部門を同時に進行させるという形態は、大阪大会によく似ている。前回から三年毎の開催と

もざりや会場案内、出演者送迎まで、一隠居ボランティアが勤める。高額なチケットを手に予選初日朝からファイナルまで

満員の会場を埋めるクラシック音楽愛好家の熱気は、これまでと同じだ。公共放送ABCなどが主催から外れたためか、大会期間中にメルボルン市内に林立し国際大会の雰囲気を感じ上げた職旗がなかったのは、ちよと淋しいけれど。

主催団体の変更が最も大きく影響したのは、結果の出し方である。この大会、弦楽四重奏とトリオそれぞれで審査



メルボルン大会で総合優勝を獲得したトリオ・マーヴィン

員が順位を出し、高得点団体に大会総合グランプリが与えられる。今世紀に入ってからは、ムジカ・ヴィーヴァが審査員の結果から独立した特別賞を出していた。副賞は、ムジカ・ヴィーヴァが主催し大陸全土

をまわる大ツアーで、人気を得れば定期的に招聘されるようになる。プロ団体とすれば総合グランプリよりも価値があろう。技術と将来性重視のプロの音楽家視点と、聴衆へのアピールと音楽的面白さを重視する聴衆視点の主催者とは、同じセッションを別の物差しで評価する。独特の二重構造が共存していたのである。興味深いことに、総合グランプリとムジカ・ヴィーヴァ賞が重なったのは過去四回のうち一度だけだった。

今回の主催者変更で、そんな二重性が解消される。結果は、弦楽四重奏はロンドン大会二位のドイツ系正統派のゴールドムントQが悲願の優勝。ピアノ三重奏はベルリンを拠点とする多国籍のトリオ・マーヴィンが優勝し、グランプリも獲得した。音楽的に極めて真つ当な結果となったわけである。出された結果が「室内楽好きの祭り」らしいものだったか、意見は分かれよう。次のメルボルン大会がまた三年後に開催されるか、正式な告知はまだない。

# 葵トリオ

## ミュンヘン・コンクールピアノ三重奏部門第一位受賞！

日本室内楽振興財団  
プロデューサー

河井 拓

大阪と同様の国際室内楽コンクールが世界中で開催されているのは、本誌でも渡辺和氏が数多く取り上げているので、ご覧になっている方も多しはず。その中でも世界的な権威であるARD国際音楽コンクール(いわゆるミュンヘン・コンクール)のピアノ三重奏部門で、日本の団体である葵トリオ(秋元孝介(Pf)、小川響子(Vn)、伊東裕(Vc))が第一位を獲得した。



予選会場であり練習室もあるミュンヘン音楽演劇大学には、毎日のように足を運んだ。

世の中に音楽コンクールは数あれども、ミュンヘン・コンクールほど大きな規模で開催しているのは僅かであろう。一九五二年の開始から今回で六十七回目となるこのコンクールは、管弦打楽器から歌唱、各種室内楽まで、年ごとに審査する部門を変え、今年も歌唱、トランペット、ヴィオラ、ピアノ三重奏の四部門が開催された。このコンクールは審査が厳しく、演奏水準が

一定に達しなければ第一位を出さないことでも有名で、前回のピアノ三重奏部門でも二位を二団体が受賞したのみで、二位と三位は該当団体が無かった。今回もウィーン・ピアノトリオやトリオ・ヴァンダラーのメンバーなど、錚々たる審査員が顔を連ねる中で葵トリオが一位を獲得。二位は該当団体が無く、三位を二団体が受賞していることから、葵の演奏がいかに優れていたかが伺えよう。なお、過去に十回開催されているピアノ三重奏部門では日本団体の入賞実績は無く、室内楽全体でも一位を受賞したのは一九七〇年の東京クワルテット以来の四十八年ぶりなので、歴史的快挙と言つて過言ではない。

メンバー全員が関西出身の葵トリオであるが、ピアノ三重奏を結成したのは二年程前のこと。それぞれ東京藝術大学に入学し、小川と伊東は同学年だったが、小川と伊東は演奏する機会があったが、学年下の秋元とは特に接点は無かった。三人はサントリールホールの室内楽アカデミーで学んでいる際に知り合い、「いつかピアノ三重奏を出来ると良いね」と意気投合し、大学院における室内楽の授業で葵トリオを結成した。それぞれの名前になり、葵の花言葉である「大望」や「豊かな実り」を実現するようなピアノ三重奏になりたいという希望が込められている。大学院の授業が終了した後、



セミファイナルとファイナルラウンドは、コンクールのホームページでもライブ配信された。

伊東は留学のためにザルツブルグへ移り、小川も東京フィルハーモニーの団員としての活動が忙しく、それぞれ個々の活動が忙しくなってきた。しかしコンクールの一年前に伊東がピアノ三重奏部門の開催を知り、メンバーに相談。各人が多忙な日を過ごしていたので即決は出来なかったが、最終的に葵トリオの挑戦を決意し練習に励んだ。録音審査を無事に通過し、ミュンヘンの舞台を踏んだのは世界中から集まった十七団体。その中には七月のメルボルン国際室内楽コンクールで優勝したマーヴィン・トリオもあった。コンクールの審査は四ラウンドで行われ、全部で九曲の課題曲(その内四曲が近現代作品)を演奏する。更に、四回の演奏を僅か一週間程度の間に弾ききるハードスケジュールだったが、葵トリオは全てのラウンドで、誠実に丁寧に作り上げた音楽を演奏して、最終的に堂々の一位を獲得した。受賞したことで、国内外からコンサートのオファーを受け始めている中で、メンバーは「この葵トリオを長く続けていくことが希望なので、まずは改めて三人で勉強・練習する時間もじっくり確保して、しっかりとレパートリーを増やしていきたいです。」とも語る。いつの日か、日本発の国際的なピアノ三重奏団になった、葵トリオの演奏を聴けることを心待ちにしたい。

三重県総合文化センターは一九九四年、文化の国体といわれる「国民文化祭」の開催に向けて、中小のホールを持つ「三重県文化会館」のほか、図書館、生涯学習センター、男女共同参画センターの機能をもつ大型施設として開館しました。来年、開館二十五周年を迎えます。

## 音楽文化の源

# 三重県総合文化センター 三重県文化会館

鈴木 智之 事業課音楽事業係長

平成29年度 稼働率

大ホール	81.7%
中ホール	75.9%
小ホール	79.2%
第1リハーサル室	88.7%
第2リハーサル室	96.1%



## 三重県総合文化センター 三重県文化会館

〒514-0061 三重県津市一身上津部田1234  
TEL 059-233-1111(代表) FAX 059-233-1106  
https://www.center-mie.or.jp/bunka/

当館は、音楽専用ホールとしてオーケストラはもちろん、オペラやバレエなどの舞台芸術にも対応できるシューボックス型の大ホール(千九百三席)、歌舞伎や伝統芸能・演劇公演に適しているプロセニアム形式の中ホール(九百六十八席)、室内楽や新進気鋭の若手劇団による舞台が開催されている客席が組み換え可能な小ホール(二百八十五席)の三つのホールを拠点に、音楽演劇・伝統芸能など劇場・音楽堂の活性化に関する法律を意識した多彩な文化事業を展開しています。また、各ホールとも、県民の芸術文化団体による貸館利用の人数も高く、常に賑わいがある施設と県民の皆様にご認知をいただくようになりました。来年には開館二十五周年を迎えます。主催公演では二十年に亘り地域拠点契約を結ぶ新日本フィルハーモニー交響楽団の協力のもと、年間二本の公演事業に加え、「三重ジュニア管弦楽団」の指導

やオーケストラ・吹奏楽で使用される楽器の講習会「新日本フィル演奏クリニック」など育成事業にも力を注いでいます。また、二〇〇八年より平日のランチタイム前に開催している「ワンコインコンサート」では、毎回千名を超える来場者で賑わい、月に二度のコンサートに足を運ぶことが生活の一部となっているリピーターも多くいらっしゃいます。年間のラインナップも幅広く今年度はピアノやヴァイオリンだけでなく、オーボエ、マリンバ、ユーフォニアムといった、地方でのソロでは耳にする機会が少ない楽器も紹介しています。



三重県総合文化センター外観

せが殺到し異例の二回公演を実施することになった「パネラ・サクソフォン四重奏団」やステージを最大限使用したパフォーマンズで楽しませてくれた「ザ・スリー・エックス」など様々な公演が思い出されます。今年度は先ほど紹介したワンコインコンサートのラインナップの出演者としてグランプリ・コンサートを大ホールで開催いたします。これは実力のあるアーティストをより多くの方に低予算で楽しんでもらうと、検討した結果です。演奏者にとっても響きの良さに定評がある大ホールで演奏できることもあり、お客様にとってこれまで以上に良い演奏をお楽しみいただけるものと思っております。当館としても、今後開催を続けていられる大阪国際室内楽コンクールとグランプリ・コンサートの運営にできる限りの応援をしています。

# サクソフォン四重奏の魅力



## 本堂 誠 (サクソフォン奏者)

〈プロフィール〉

2012年東京藝術大学を卒業し、同年パリ国立高等音楽院に入学。サクソフォン科、室内楽科を最優秀の成績で修了。ソリストとして、3つの国際コンクールで優勝し、2017年第34回日本管打楽器コンクール1位、内閣総理大臣賞等を受賞。内外のオーケストラとも共演している。室内楽では、2017年第9回大阪国際室内楽コンクールに「ニオベ・サクソフォン四重奏団」(フランス)のバリトン奏者として出場し第2位を受賞。洗足学園音楽大学非常勤講師。

なっています。

現在私は活動拠点を日本に移し、ブルー・オーロラサクソフォン・カルテットのバリトン奏者として活動していますが、当時はニオベ・カルテットに在籍していました。優勝したザイール・カルテット、第二位の私達、そして三位のローカル・プラス・クインテットと、いずれもパリ国立高等音楽院に在籍している友人たちが入賞、という結果になったことは、私が留学したことでも得られた経験を確かな価値のあるものとして高めてくれました。

ただ、第五回、第七回に続くサクソフォンの優勝という結果は、正直なところ他のアンサンブルには申し訳ありませんが、やはりサクソクス四重奏が秘めている可能性の力が大きいからではないかと、私は思っています。

そもそも同じ発音体を持つ

中にいるのだと、私は考えています。

現在、世界的に見てもサクソクス四重奏は中堅から若手まで幅広く実力のあるグループが存在します。そして、何よりも特筆すべきこととして、全てのグループにオリジナリティがあるのです。

それにより、レパートリーは一層豊かになってくる。生まれる音楽も、そのカルテットでしか演奏することのできないものになってくる。この差こそ、今の時代の多様性に適した、まさにカルテットの可能性と発展を示すものであると思います。

さて、今度は私自身、一奏者の立場として、カルテットの魅力を感じる部分についてです。

これはどのアンサンブルにも言えることですが、指揮者なしでアンサンブルをする、というのは、つまり音によるコミュニケーションをすることで音楽を作っていくのですが、このやり取りがとても面白いのです。コンサートにおいて、ソロであ

楽器四本による形態、というのはそうそうあるものではありません。なぜなら、楽器というのはサイズが変わるにつれて、音色も大きく変化してしまうからです。



第9回大阪国際室内楽コンクール 第2部門2位の「ニオベ・サクソフォン四重奏団」表彰式

この問題を克服した人こそベルギーの楽器発明家、アドルフ・サククスであり、サクソフォンという楽器なのです。

一八五六年に生まれたこの楽器は、「その豊かな音色は時に

れば聴衆と奏者の間にのみコミュニ

ケーションが生まれます。それがアンサンブルになると、聴衆と奏者のコミュニケーションに加え、奏者同士での

コミュニケーションも生まれるのです。つまり、張り巡らさなければならぬアンテナが、その数だけ増えていく、ということになります。

カルテットで言えば、四人で二つの音を作ろうとすることもあれば、二人の旋律に三人の伴奏が付くこともあるし、「二対二」の掛け合いがカルテットの中で二グループ生まれることもあるし、四人全員がソロを吹くように演奏することもある。

この二人がこなす様々な役割「の四乗、つまり一人が受け持てる役割が多ければ多いほど、途方もない可能性が広がっていくのです。そして、一人だけでは思いつかないアイデアが、相手と演奏することでどんどん生まれてくる、そんな魅力

人間の声のようであり、鐘の響きの最後に残る余韻のようでもある」と絶賛したベルリオズの言葉通り、その音域が変化しても代わることはない音色の豊かさと同感「超ピアノニッシモから超フォルティッシモまでカバーする音量の幅の広さを持ち、そしてこれこそサククスの最大のオリジナリティと言えるでしょう。

二十世紀初頭、サククスの名手として一番初めに名前の挙がった、マルセル・ミュールが誕生しました。彼がパリ音楽院にサククス科を設立したこと、そして、彼自身がサククス四重奏という形態を好んで演奏したこと、その認知度は一気に高まります。

以来、サククス四重奏のレパートリーは、一九九〇年頃までに急激な成長を遂げます。マルセル・ミュールと交友関係のあった、パリ音楽院出身作曲

もあります。

これこそ、カルテットがただの「メロディーと伴奏」だけに留まらない、面白さの可能性を秘めている部分なのです。

歴史的レパートリーの発達から見たサククス・カルテットの可能性、そして一個人として参加して感じるカルテットの面白さや魅力、この記事を読んでも生のカルテットの演奏を聞くことで、彼らが演奏中に音楽を通してどんなコミュニケーションを交わしているのか、そして彼らだけが持っているオリジナリティとは一体何なのかを発見してもらえると、私としては奏者冥利に思います。



ニオベ・サクソフォン四重奏団

そして二〇〇五年、第五回大阪国際室内楽コンクールを含む、八つもの国際コンクールで優勝したハバナ・四重奏団の登場とともに、サククス四重奏という形態は一つの到達点を迎え、今は成熟期の真っ只





グランプリ・コンサートは、三年毎に開催される「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」の優勝団体を毎年部門ごとに招いて、各地の主催者の協力を得て開催しているものです。

今年の公演は、「金沢21世紀美術館シアター21」での石川公演を皮切りに全国で、計十会場で開催します。今年、

ツアアの最終公演地となる熊本公演は、いつもの益城町文化会館が熊本地震で被災し、長期の改修工事に入るため益城町内の小学校での開催となりました。

今年のグランプリ・コンサートは、第二部門管楽アンサンブル部門で優勝のサクソフォン四重奏団「クワチユオールザイール」

今回のプログラムは、A・Bの二種類のプログラム(三重・熊本は特別プログラム)が用意されています。共通の演奏曲目には、主にコンクールで演奏した曲を配置し、Aプログラムでは没後百年に当たるドビュッシーの弦楽四重奏曲を披露。また

二〇一三年以来の開催となった金沢での公演が実現。毎年開催の三重公演では、三重県文化会館の名物企画「ワシントンコンサート」として大ホールで開催して頂くことになりました。さらには葉山公演として初めて「葉山町福祉文化会館ホール」での開催となり、公演前日には葉山町内の小学校でアウトリーチ活動を行う事となりました。また、

(フランス)が登場いたします。彼らはフランスのバリ国立高等音楽院で出会い、二〇一五年にクワチユオールザイールを結成しました。結成からまだ三年の若い四人組ですが、サクソフォン・クアルテットの理想や可能性を追求し、進化させたいとの願いを強く持つ活動が続いています。ヨーロッパでの活躍は勿論のこと、来年は日本でのコンサートも決まっております、若手アンサンブルとして世界的にも注目されるまでに成長するその理由は、優れた演奏技術はもとより、その探求心もあつてのことかも知れません。

■開催日程■

11月 7日(水)	金沢 (Aプログラム)	金沢21世紀美術館シアター21
11月 8日(木)	高岡 (Bプログラム)	富山県高岡文化ホール
11月12日(月)	大阪 (Aプログラム)	いづみホール
11月14日(水)	三重 (特別プログラム)	三重県文化会館大ホール
11月17日(土)	葉山 (Bプログラム)	葉山町福祉文化会館ホール
11月18日(日)	東京 (Bプログラム)	トッパンホール
11月20日(火)	鳥取 (Bプログラム)	鳥取市文化ホール
11月21日(水)	広島 (Bプログラム)	庄原市民会館
11月23日(金)	大分 (Bプログラム)	くにさき総合文化センター アストホール
11月25日(日)	熊本 (特別プログラム)	益城町立広安西小学校

■全国共通■

- 主催/ 公益財団法人 日本室内楽振興財団
- 協賛/ **ダイワハウス**
- 助成/ 公益財団法人 ロームミュージックファンデーション
- 協力/ 野村證券株式会社

Bプログラムでは、ザイールの為に書かれた新曲をはじめ、生涯百年となるパースタインの「ウエストサイド物語のメドレー」を演奏するという、いずれも意欲的なプログラムです。

クアルテットの名前である「ザイール」という言葉は、アラビア語で「目に見える、そこにある」

という意味で、さらには「何か、或いは誰か、ひとたび接触を持つてしまうと、徐々に私達の思考を支配していくもの」という意味を持つそうです。一度聴いたら病みつきになる演奏、「クワチユオールザイール」のサクソフォン四重奏の世界に是非皆様も足を運んでみてください。



平成30年度 第1回理事会

開催:平成30年6月4日(月) ホテルニューオータニ大阪

議事:平成29年度事業報告並びに決算報告が審議され可決承認され、平成30年度定時評議員会の招集と議題についても可決承認されました。また改選期の特別顧問及び選考委員についても可決承認され、代表理事、業務執行理事選定についての報告が行われました。

平成30年度 定時評議員会

開催:平成30年6月20日(水) ホテルニューオータニ大阪

議事:評議員の互選で牧野明次評議員を議長に選出後、先の理事会で承認された平成29年度事業報告並びに決算報告が可決承認されました。新任評議員の選出について可決承認された後、改選期に当たる理事・監事を選任。特別顧問及び選考委員承認についても報告されました。

新たに選任された評議員:

- 絹川 直 (大林組) 炭谷 正樹 (西日本電信電話) 河端 秀直 (日建設計) 村川 洋一 (竹中工務店)
- 武野 一起 (読売テレビ放送)

また、代表理事及び業務執行理事の選定について、定款35条(決議の省略)の規定により、書面にて理事及び監事全員の同意を得ました。

- |         |                                    |
|---------|------------------------------------|
| 会 長     | 森 詳介 (関西経済連合会、関西電力)                |
| 理 事 長   | 望月 規夫 (読売テレビ放送)                    |
| 常 務 理 事 | 牧野 立太 (日本室内楽振興財団、読売テレビ放送)          |
| 理 事     | 今井 敏之 (大阪ガス) 彌園 豊一 (関西電力)          |
|         | 山本 卓彦 (サントリーホールディングス) 藤本 宏樹 (住友生命) |
|         | 芝 道雄 (ダイキン工業) 川端 則安 (西日本旅客鉄道)      |
|         | 福田 里香 (パナソニック) 橋本 誠司 (読売新聞大阪本社)    |
| 音 楽 理 事 | 堤 剛 (チェリスト、日本芸術院会員、サントリー芸術財団)      |
| 監 事     | 穂積 一郎 (三井住友銀行) 木瀬 浩平 (読売テレビ放送)     |
| 特 別 顧 問 | 山口 寿一 (読売新聞東京本社) 大久保 好男 (日本テレビ放送網) |
| 選考委員長   | 藤田 由之 (指揮、評論)                      |
| 選 考 委 員 | 青澤 隆明 (評論) 小野寺 昭爾 (大阪フィルハーモニー)     |
|         | 沼野 雄司 (桐朋学園大学) 横原 千史 (評論)          |

平成31年度 助成金募集について

平成31年度交付の助成金は、9月1日(土)に募集を開始し、10月31日(水)が応募の締め切りとなっています。ご応募についてのお問い合わせや詳細は下記までお願い致します。

公益財団法人 日本室内楽振興財団:電話/06-6947-2183 ホームページ/http://www.jcmf.or.jp

**公益財団法人 日本室内楽振興財団(JCMF)について**

目 的:室内楽の水準の向上・普及を図るために、国際的な室内楽コンクール開催とともに、室内楽演奏会の開催や各種活動に助成等を行い、もって我が国の芸術文化の発展と真の国際交流に寄与することを目的とします。

設 立:1992年5月26日

主な活動:「大阪国際室内楽コンクール&フェスタ」の開催(3年に1回) 室内楽の演奏会の開催  
室内楽の演奏活動及び教育普及活動への助成 室内楽に関する調査研究  
室内楽に関する広報(広報誌及びホームページ) その他目的を達成するために必要な事業

# 街は一つの『オーケストラ』 音は世界へと広がっている

美しく彩る秋が到来しました。

どこまでもクリアで広がりを見せる空の美しいグラデーションや  
木々や街並み、人もまた装いを大きく変化させ魅惑的な情景をうつします。

あなたとは違う暮らしの風景。

高まるわくわくとダイレクトに揺さぶられる心のときめき。

飛び交う言葉、生活音、街の雑踏といった音たちは、

いきいきと弾ませながら紡がれていきます。

それはまるで、街が奏でる『オーケストラ』。

私たちJTBIは、

世界のどこかで奏でられる街の『オーケストラ』

出会える楽しい旅のお手伝いをいたします。



## JTB 大阪第二事業部

〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町3-1-8 (MPR本町ビル7階)  
TEL.06(6252)2711(代) FAX.06(6252)2790  
担当:有野 良一

## 公益財団法人日本室内楽振興財団 支援企業

大阪ガス株式会社  
関西電力株式会社

住友電気工業株式会社  
ソニー株式会社  
株式会社東芝

日本電気株式会社  
パナソニック株式会社  
株式会社日立製作所  
富士通株式会社  
ローム株式会社

株式会社近畿大阪銀行  
株式会社みずほ銀行  
株式会社三井住友銀行  
三井住友信託銀行株式会社  
株式会社三菱UFJ銀行  
株式会社りそな銀行

住友生命保険相互会社  
東京海上日動火災保険株式会社  
日本生命保険相互会社  
三井生命保険株式会社

野村證券株式会社

アサヒビール株式会社  
サントリーホールディングス株式会社  
ハウス食品グループ本社株式会社

東洋紡株式会社  
株式会社ワコール

伊藤忠商事株式会社  
岩谷産業株式会社  
株式会社千趣会  
三菱商事株式会社

川崎重工業株式会社  
株式会社クボタ  
新日鐵住金株式会社  
ダイキン工業株式会社  
日立造船株式会社  
三菱重工業株式会社

株式会社日建設計

株式会社大林組  
鹿島建設株式会社  
株式会社きんでん  
株式会社鴻池組  
清水建設株式会社  
大成建設株式会社  
大和ハウス工業株式会社  
株式会社竹中工務店

非破壊検査株式会社

大塚製薬株式会社  
住友化学株式会社  
積水化学工業株式会社  
武田薬品工業株式会社  
日本ペイント株式会社

近畿日本鉄道株式会社  
京阪電気鉄道株式会社  
南海電気鉄道株式会社  
西日本旅客鉄道株式会社  
阪急電鉄株式会社  
阪神電気鉄道株式会社

株式会社JTBI  
株式会社電通  
株式会社ニュー・オータニ

KDDI株式会社  
西日本電信電話株式会社

株式会社読売新聞大阪本社  
株式会社読売新聞東京本社  
日本テレビ放送網株式会社  
讀賣テレビ放送株式会社

(関連業種別50音順)

## C O N T E N T S

インタビュー × コンサートレポート

芸術と芸能の両方の現場を見てきたことで、  
様々な見方ができるのは強みだと思う。

インタビュー:宮川彬良  
コンサート:「アキラさんの室内楽でございます♪」……………1

音楽の学び舎 東京藝術大学  
室内楽は他者と何を共有するかを捉える根本です。  
松原勝也……………7

ふたつの英国流コンクール  
～ロンドンとメルボルン～  
渡辺和……………9

葵トリオ ミュンヘン・コンクール ピアノ三重奏部門 第1位受賞!  
河井拓……………11

音楽文化の源  
三重県総合文化センター 三重県文化会館  
鈴木智之……………12

サクソフォン四重奏の魅力  
本堂誠……………13

グランプリ・コンサート2018 クワチュオール・ザイール(フランス)  
柳圭史……………15

JCMF NEWS……………16

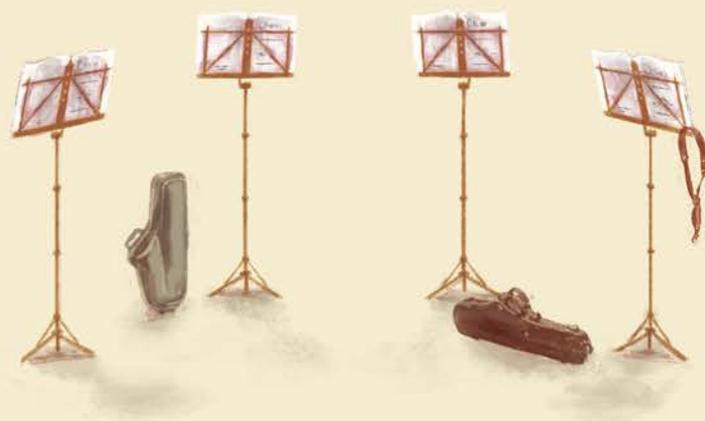
日本室内楽振興財団支援企業……………17

あ  
と  
が  
き  
今回寄稿頂いたサクソフォン奏者の本堂誠さんは、昨年の第9回大阪国際室内楽コンクールに、フランスの「ニオベ・サクソフォン四重奏団」(第2部門2位)のバリトン奏者として参加されました。東京藝術大学・大学院からパリ国立高等音楽院に進み、今年優秀な成績で修了されました。今後はソロ、室内楽と活動の場をさらに広げて行かれることを期待したいと思います。

奏

●編集・発行／公益財団法人 日本室内楽振興財団

〒540-8510 大阪市中央区城見2丁目2番33号 読売テレビ内  
TEL.(06)6947-2183 FAX.(06)6947-2198  
URL <http://www.jcmf.or.jp>  
Cover Design : Mié  
Interview Photo : Nobuhiro Tamakoshi  
VOL.50 平成30年10月25日



公益財団法人 日本室内楽振興財団